

人間文化研究機構国文学研究資料館

2024（令和6）年度第4回運営会議 議事要旨

- 【日 時】 2025（令和7）年2月21日（金） 10：00～11：00
【場 所】 Zoom
【出席者】 安藤、入口（議長）、大山、岡崎、川平、神作、木越、久富木原、倉員（副議長）、齋藤、佐藤、田淵、張、遠山、西村、ヒューイ、藤實、山本和明、山本聡美の各委員
【欠席者】 鈴木、八木、山地の各委員
【陪席者】 渡部館長、秋庭管理部長、笠原総務課長、姫野財務課長、その他関係職員

議事に先立ち、渡部館長から挨拶があった。

笠原総務課長から、会議の定足数について、運営会議委員22名のうち、欠席者は3名で過半数11名以上となり、19名出席しているため定足数を満たしている旨報告があった。

議 事

- 【前々回（2024（令和6）年10月22日）及び
前回（2024（令和6）年12月18～20日）運営会議議事要旨の確認】
原案のとおり了承された。

【審議事項】

- 1 研究教育職員の人事について （資料1）
入口議長から、研究教育職員の人事について、前回会議以降の経過報告を行った後、人事協議会での審議を経て2月12日（水）に候補者名の通知及び選考資料を送付した旨説明があった。
続けて神作委員から、取扱注意資料1に基づき、2025（令和7）年4月1日付の研究部准教授の教授昇任について、候補者の経歴及び審査所見等の説明があった後、可否投票の結果、昇任が了承された。
- 2 名誉教授の候補者について （資料2）
入口議長から、資料2及び取扱注意資料2に基づき、渡辺浩一教授への名誉教授称号授与について、候補者の経歴や選考過程等の説明があり、可否投票の結果、了承された。
- 3 客員教授の選考について （資料3）
神作委員から、資料3及び取扱注意資料3に基づき、2025（令和7）年4月1日付の客員教授の選考について、候補者の経歴及び審査所見等の説明があり、審議の結果、了承された。

【報告事項】

- 1 2025（令和7）年度国文学研究資料館予算（案）について（資料4）

姫野財務課長から、資料4に基づき、2025（令和7）年度予算内示額は前年度から縮小されており、基幹運営費として約9億6千3百万円、ミッション実現加速化経費として約3億8千万円、合計約13億4千2百万円となっていること、財源確保及び経費削減の対応に取り組んでいることについて報告があった。
- 2 国文学研究資料館古典籍データ駆動研究センターマテリアル分析共同利用実験室の開設について（資料5）

大山委員から、資料5に基づき、今年度3月中に古典籍データ駆動研究センター下にマテリアル分析共同利用実験室を開設し、実験室に微小部X線分析装置を新たに導入予定であり、まずは当館の国文研 DDH プロジェクトに関する共同研究先の研究者に当該実験室を利用いただき、経験を積んだのちに広く共同利用に供したい旨報告があった。
- 3 その他
 - (1) 2024（令和6）年度～2025（令和7）年度の今後の催し物について（資料6）

入口議長から報告があり、特にたましん美術館との共催展示は、当館の所蔵資料を他館で展示する初の試みであり、各メディアでも取り上げられているとの補足説明があった。
 - (2) 2025（令和7）年度運営会議の開催日程について（資料7）

入口議長から、以下のとおり報告があった。

第1回目	2025（令和7）年6月26日（木）15時00分からオンラインで開催
第2回目	2025（令和7）年11月7日（金）15時30分から対面で開催
第3回目	2025（令和7）年2月20日（金）15時00分からオンラインで開催

【当館へのご意見等】

遠山委員から、マテリアル分析共同利用実験室の開設やたましん美術館との共催展示等、新しい取組みに励んでいることは素晴らしいことであり、その分、厳しい予算状況下でつらいこともあるだろうとの発言があった。そのうえで、国文学研究資料館は一国の文化の基盤を担う機関であり、予算も少なくとも前年より縮小されることがないように、様々な機会でも声をあげ、関係者で協力してサポートしていきたいとの意見があった。

入口議長から、大変ありがたいお言葉であり、今後も当館の運営についてご支援及びご助言をいただきたいとの発言があった。

以上